

令和4年度(2022年度)第5回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)10月15日(土)9:30~12:00
場所	川口中学校1階 被服室
出席者	参加者：荒井、荒木、稲原、白鳥(信)、田倉、内藤(佳)、内藤(妙)、中尾、中村、古田、安田、山口 高齢者あんしん相談センター川口：小林、太田、長内 はちまるサポート川口：田中 元八王子事務所長：成田 八王子地域 PAL-ETTE：平島 川口中学校校長：鷲尾 未来デザイン室：野田、牧瀬 (株)RPI：岩崎、笠原、高尾
見学者	八王子未来 CAN-VAS：石井、大学生：瀬谷
配付資料	・令和4年度(2022年度)第5回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 ゼロカーボンシティの実現に向けて地域に取り組んでほしい事業一覧 ・資料2 川口中学校区地域フォーラム募集チラシ(案)

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認した。

3 議題

(1) 運営担当打ち合わせの報告

会議資料をもとに、運営担当の荒木氏から第5回推進会議の議題となるアクションプランや推進会議のしくみ、地域フォーラムの各検討経過について報告した。

(2) アクションプランを検討しよう

会議資料をもとに、第4回推進会議や運営担当打ち合わせの振り返りを行った後、アクションプランの考え方を説明し、「公共施設の再編に向けた検討(活動拠点の整備と地域コミュニティの活性化の組み合わせ)」、「防災教室の開催(地域の担い手の育成と地域防災の組み合わせ)」、「マルシェの開催(地域コミュニティの活性化や地域担い手の育成、カーボンニュートラルの組み合わせ)」の3つのアクションプランを事務局より提案した結果、令和5年度(2023年度)から取り組むアクションプランとして合意した。

(3) 推進会議の体制について検討しよう

会議資料をもとに、第4回推進会議や運営担当打ち合わせの振り返りを行った後、推進会議の活動について説明を行った。また、推進会議の体制案について事務局から提案し、意見交換を経て現行案で合意した。主な意見交換の内容は、以下のとおり。

< 意見交換 >

- ・自分達が自身の所属団体に地域づくりを説明するに当たり、様々な要素があるため、苦労している。推進会議を一言で説明できると周知がしやすい。

推進会議の目的は、市ホームページに公開されている実施要綱で示す、「地域の課題解決に向けて協働するためのしくみをつくる」こと。そのしくみを議論する場が推進会議ではないか。(参加者)

アクションプランの6つの項目はあくまで現状の課題であり、その中から緊急性などを含めてどう取り組んでいくのかをこれから議論していくことになるのではないか。(参加者)
- ・推進会議は住民側から八王子市に要望等を伝える窓口になるということか。

推進会議は、地域自らが地域課題を検討し、活動していくことが主な活動であり、その検討過程において地域だけの解決が難しいとなった課題を行政に届けることで、協働による解決、行政課題としての解決につなげていくことを想定している。(未来デザイン室)
- ・推進会議で議論したことを自身の所属団体等に報告しているか。

町会では、9月までの推進会議の内容を14の町会自治会に回覧で報告予定。今後、広く住民から推進会議の活動に対する意見をいただくことにもつながると考えている。(参加者)
- ・所属団体等に対して発信することで意見が出てくると思うが、推進会議を通じてその意見が行政からの回答があれば、会議に参加していない住民とも信頼関係が生まれ、推進会議の存在もさらに広がっていくのではないか。
- ・事務局だけに頼るだけでなく、運営担当の中でも整理し、推進会議から提案することも必要。
- ・運営担当から提案はするが、行政側がそれをどこまで受け止めてくれるかが重要。協働というのであれば、共に考えてほしい。川口地区の推進会議と事務局がうまく連携できれば、今後、各地区の活動にも波及していくのではないか。
- ・住民の意見収集について、組織に属さない一般住民からの声を聞くことは重要だと思うが、実際には難しい面もある。町会のように小さな組織単位で意見収集できれば早く進むのではないか。具体的な方法は今後探していきたい。
- ・学校関係の組織と町会が連携できれば、ある程度の意見は収集できるのではないか。ただ、就学前の小さい子どもがいる家庭や、学生等の意見収集は難しいかもしれない。
- ・60代以上でも7割の方がSNSやYouTubeを使っているというニュースを見た。紙の回覧にこだわらず、動画などで発信すると伝わりやすいかもしれない。

回覧は地域のコミュニティをつなげるという意義もあり、情報を伝えるだけではない。ただ、回覧の問題は紙の量が多すぎる。量が多すぎると誰も見ないし、本来見てもらい人に見てもらえない状況もある。見てもらう工夫は必要。(参加者)
- ・意見収集は、「活動拠点の整備」に組み込めるのではないか。拠点が有り、そこで必要な情報を集約し、発信していくのが理想。現実的には全住民に浸透するのは難しい。

これまでの推進会議において、情報収集も行えるプラットフォームの必要性について話が出た。他の自治体では、そこに有償で若い広報担当を置いていると大学の先生からも話があった。また、八王子の情報を毎日発信されるサイトもある。これらを踏まえると、川口にも広報担当者を置いて、仕事として取材に行き、情報発信できれば若い人も必ず見てくれるのではないか。(参加者)

有償で人材を登用する話は、現状では予算がないので難しい。予算は今後も要求していくが、予算がない以上、現行の体制で取り組むしかない。(参加者)

有償の情報発信のしくみは体制のどこかに書き、しかるべき時に実現させたい。(参加者)
- ・高齢者がやるよりも、若い方が活動した方がよいが、そういう人を呼び込むにはお金が必要。

- ・SNSは、お金がなければできないわけではない。例えばSNSの広告収入があれば、それほど大きな予算がなくても実施できるかもしれない。
 - ・現時点で推進会議への参加が難しい人もいる中で、新しい組織体制をつくるのは無理がある。既存の組織を活用する視点も必要。魅力ある活動でなければ若い人は参加しない。
既存の組織は、役割や方針が異なり、活動に制限が出る可能性がある。地域の将来ビジョンを示したうえで、この方向で活動していく組織にした方がよいのではないか。魅力のある活動を通してより多くの方が参加できる組織にしていきたい。(未来デザイン室)
 - ・地域づくりの先進都市は新潟市と豊中市。そこでの最大の問題は行政の縦割りと、参加者が多すぎて意見集約ができないことだったと聞いた。意見を拾うことは大事だが、集まりすぎるとまとまらない。やり方は運営担当の中で徐々に整理をしていくしかない。
 - ・コミュニティカレンダーは、文字が小さくて情報量も多く、何が書いてあるかわかりづらい。扱われる情報量を考えると、3か月に一回の発行でよいのかと思う反面、毎月にすると作成者の負担が多すぎる。
 - ・人手や参加者のモチベーションが気になる。コミュニティカレンダーは特に大変と感じる。推進会議自体の参加者も減ってしまうのではないか。
 - ・負担感が少しでも減らせるツールがあるとよい。コミュニティカレンダーもWEB上で編集できるしくみをつくり、自分の団体の情報は自分で発信できるようにすればよいのではないか。マルシェのように、楽しみがあればボランティアでも続けることができる。
コミュニティカレンダーに関しては、どこまでの情報を扱うか、網羅する必要があるかを検討する必要があり、そのために作成目的を再整理する必要がある。(未来デザイン室)
 - ・川口中学校区のホームページができれば、マルシェの情報もカレンダーも掲載できる。
 - ・マルシェのチラシは、デザイン経験のある方にボランティアで作成いただいたが、今後もボランティアでは頼みづらい。コミュニティカレンダーもデザインができればよいが、そのためにはお金が必要。
 - ・市の予算が難しいのであれば、クラウドファンディングやマルシェのチラシに広告を載せるなど、自分たち自身で財源を確保する方法もあるかもしれない。
 - ・地域の担い手のネットワークがつながれば、コミュニティカレンダーも含め、ボランティアで作業を分担できるようになるかもしれない。
- 皆様からの御意見を踏まえ、推進会議の体制について運営担当にも協力を得ながら整理し、次回の推進会議においても引き続き検討させていただく。

(4) 地域フォーラムの開催に向けて

会議資料をもとに、地域フォーラムの内容・進行等について説明を行った。主な意見交換の内容は、以下のとおり。

< 意見交換 >

- ・運営担当での打ち合わせにおいて、託児サービスの導入を事務局に提案したが、実施できないとの回答であった。託児を頼める人材を運営担当で用意できれば、当日の運用は可能か。未来の話をするときに、当事者である子育て世代の方が参加できる体制をつくってあると示すだけでも、印象が違う。
スペースだけであれば、会議室を予約しているため、対応は可能。ただし、担当所管課に確認したところ、託児するに当たっての保険や責任の所在などの問題もあり、短期間のなかで調整することは難しいため、次回以降の開催時における整理とさせていただきたい。(未来デザイン室)
- ・ZOOMなど、オンラインで一般の方に公開することも重要。オンライン参加が可能であることを掲載できるとよい。

- ・オンライン参加はチラシに掲載し、希望者がいた場合は対応させていただく。(未来デザイン室)
- ・チラシが修正可能なら、推進会議と活動の関係性を掲載してもよいのでは。マルシェの開催、コミュニティカレンダーを作成しているなど、すでに動いている活動内容が連動していることを示した方がよい。
- ・マルシェのチラシも二次元コードなどで掲載してほしい。

チラシ内で実際の活動に触れるよう調整をさせていただく。(未来デザイン室)

- ・地域フォーラムに中学生も参加できるのであれば、学校でも生徒に紹介したい。(川口中学校校長)
- ・今後、必要な修正を加えたうえでチラシを配布する。締切までに応募が少なければ、マルシェでのチラシ配布などで募集を行う形でどうか。(未来デザイン室)

異議なし(参加者)

(5) 部会活動の共有

各部会から活動状況について全体に共有した。部会ごとの主な質疑応答内容は、以下のとおり。

< コミュニティカレンダー >

- ・年間の各町会の情報を、部会で作成した統一フォーマットに入力してもらえると作業が簡略化できるのでお願いしたいと考えている。
- ・長房中学校区でもSNSでの情報発信を開始したとのことで、手法等について情報共有をしたい。学校では、コミュニティカレンダーを紙で配布いただいている。転入者に対しては、町会加入を呼びかける際に配布いただいている。地域の取組に興味を持つ方が増えればと思う反面、コミュニティカレンダーの作成は負担感が大きい。作成の担い手を募ることができるとありがたい。

マルシェで案内ブースを設置するので、そこでコミュニティカレンダーの担い手を募るとよいのでは。

< マルシェ >

- ・マルシェ開催に向けて、推進会議全員が閲覧可能なフリーメールを取得してInstagram等のSNSを開設してはどうか。

長房中学校区では、推進会議としてFacebookやTwitterも同期している。川口中学校区でも実施する際には、事前に共有いただくほか、最低限の運用ルールを事前に決めておく必要がある。(未来デザイン室)

川口中学校区はモデル地区でもあるので、ルール化と行政の確認が取れば問題ないのではないかと。広告の話もあったが、町会でも寄付を募っている。町会は一般に認識されているが、推進会議はまだ認識されていないので、難しいかもしれない。

- ・事業実施に当たって、消防、警察、保健所などに個人で交渉に行っても話が通らないが、住民協議会の肩書きをもっていくことで、簡単に話が通った。団体と連携して取り組む意義は大きいと感じた。
- ・推進会議参加者に同意をとる必要があるが、連絡ツールがない。LINEを使っていない人もいる。

SNSの立ち上げに関する同意確認の連絡は、事務局で手伝うこともできる。(未来デザイン室)

(6) 情報共有

参加者間の情報共有として、はちまるサポート川口と高齢者あんしん相談センター川口、川口西部会館での活動と、活動を通じた課題・地域の要望等について共有した。

閉会

令和4年度(2022年度)第4回川口中学校区地域づくり推進会議議事概要(案)を配布し、修正等がある場合は、令和4年(2022年)10月24日(月)までに未来デザイン室へ連絡するよう依頼した。

地域フォーラム及び第6回推進会議の開催日程の確認を行った。
地域フォーラム:令和4年(2022年)11月26日(土)14:00～16:00
第6回:令和4年(2022年)12月17日(土)9:30～12:00

以上